

フードバンク + 隅田川医療相談会

小さな声を集める・伝える



2024年7月吉日

発行:一般社団法人 あじいる

2024 Vol.11 [NEWS]

一般社団法人 あじいる

# つぶやき

## The Backbone 気骨

巻頭 表現をうけとる  
耳と眼を  
研ぎ澄ます

難民申請と入管  
「ここで暮らしたい」  
諦めずにいたいこと

ブルーテントの中  
鍼灸師が見る  
医療相談会

まちと人の記憶  
活動記録撮影  
プロジェクトスタート

活動報告  
医療相談会+フードバンク、会計報告

積み込みから積み降ろしまで。屋台骨を支える人 写真・山崎まどか

巻頭 表現をうけとる

# 耳と眼を 研ぎ澄ます

聴いている、と想着いても、  
本当にきこえていなかったことがある。  
見えている、と想着いても、  
本当にみえていなかったことがある。



最近、聴覚と視覚について、思いを巡らすことが多くあったので、みなさんにお話したいと思う。

たとえば、音。私は音楽を聴くのが好きで、これまでさまざまな楽器の音を楽しんできた。しかし、最近、心を素手で触られるような、そんな音に出会った。友人の弾くピアノの音から、単なる音を超えるものが聴こえてきたのだ。それは、「祈り」だった。それからわたしは、音や声に、これまで気がつかなかったものを聴きとろうとしている気がする。

英語も日本語も通じない、非正規滞在の外国人の方々言葉。診察室で、アプリを使って、なんとか訴えを掴もうとすると、必死で画面を見つめるが、同時に大切なことは、訴えているときの表情と言葉だ。ペルシャ語はまったくわからないけれど、その響きに、深刻さを感じ取れるようになりつつある。これは、まったくもって直観的なものだ。

日本語の響きにも、改めて耳を研ぎ澄ませてみる。何か月か寝場所を離れていた野宿の仲間が久しぶりに戻っていて、声をかけると「元気にしとるよ」。

けれど、その声は弱くかすれている。いつもの闊達さがなく、心配になる。

診療所に路上から通ってきてくれる仲間の苛立った声。

なかなか鬱滞（うつたい）性皮膚炎が治らない。静脈瘤があるから血管外科を紹介したいのだけれど、無料低額診療だとなかなかむづかしい。「良くならない」と訴える声の調子が、ずん、と胸に刺さる。

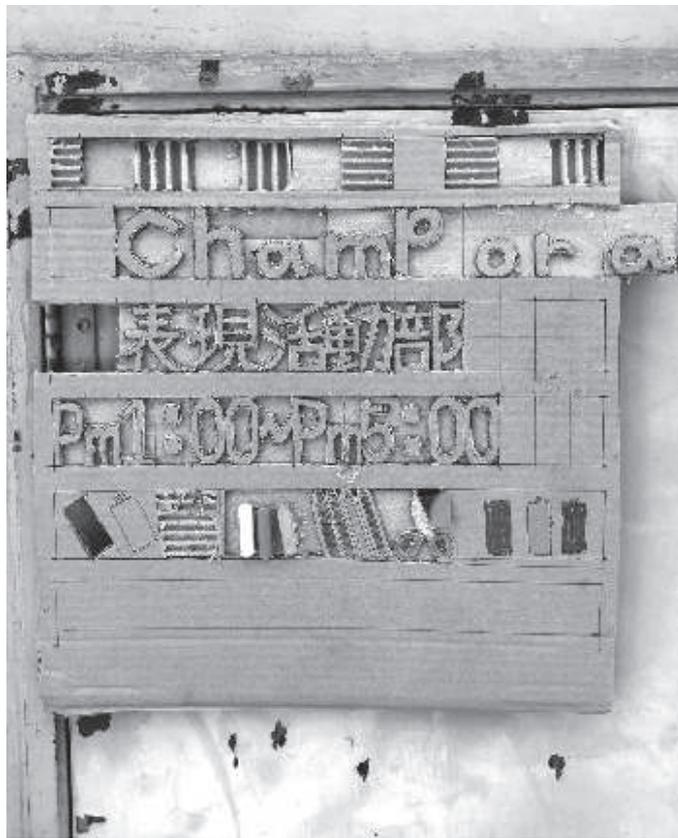
難民シェルターに入って半年、アフリカ出身の難民のBさんの声は、常に微笑んでいるみたいだ。彼はボランティアに参加する動機をこう語る。

**Support each other, Live together!**

「互いに助け合い、いっしょに生きる！わたしはそれが好きだから」祖国を追われ日本へ逃げ延びてきたBさんが望んでいることは、日本人といっしょに生きていくことなのだ。暖かい響きを持つ彼の声によって、その思いが伝わってくる。

こんな風に、音や声を直観的に聞くことは、本質をとらえるために、とても大切なことだ。

そして、私の眼。昔から私の絵画の鑑賞法は「直観的に捉える」やり方だ。感想を尋ねられて「眼が喜んでいました」などと答えてしまうのは、そのためかもしれない。そんな見かたでいいのだろうか、と思いながら、これまで生きてきた。



自由ひろばを使って反貧困ネットワークの表現活動が行われています。上は仲間が制作した看板。 写真・小和田 直幸

## 自由ひろばと表現活動 “Champora” (ちゃんぽら)



国籍、セクシャリティ、年齢、障害の有無等々、分け隔てなく交流できる、「反貧困ネットワーク」の居場所づくりプロジェクト“Champora”(ちゃんぽら)。

その中のアートに特化したセクションが表現活動部。様々な社会的事情、困難な状況にある方々が参加されています。会場は東京 DEW、あうん自由ひろば。

参加希望その他  
お問い合わせは  
小和田まで



「あじいる」に参加してくれている小和田さんが、障害やさまざまな困難を抱えている人々の表現活動をわたしたちに紹介してくれたとき、感動した私の「眼」は、快哉を叫んだ。

「絵を語るのに言葉は不要、直観による判断でいい！」

最近私の眼をよこばせたのは、訪問診療しているお宅で見かけた、寝室の襖(ふすま)の半分ほどを使ってダイナミックに描かれた絵である。

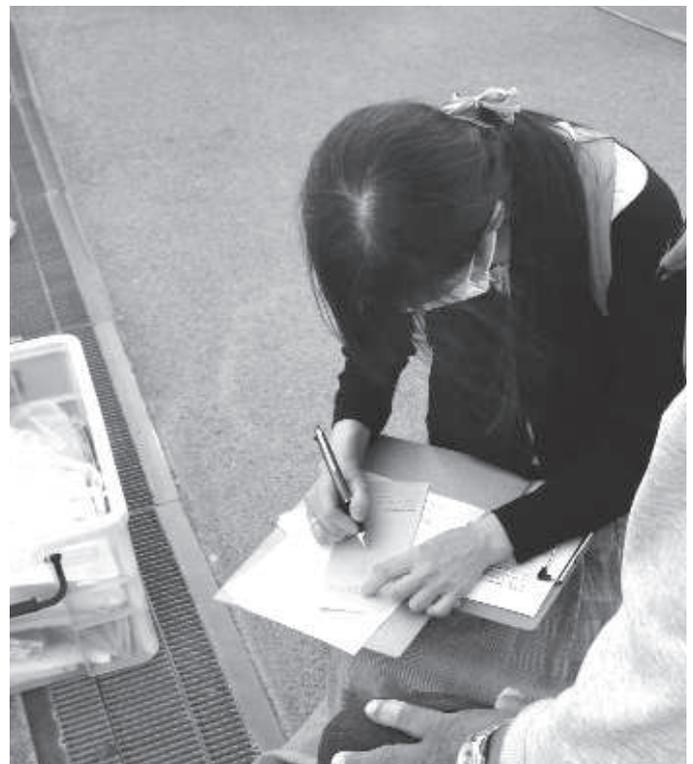
作者は患者さんのご家族で、苦労で身動きのとれなくなっている方。夢で見たことを忘れないうちに残した絵なのだそうだ。小和田さんは襖を展覧会の公募に出すという。作家の笑顔がまぶしかった。内面の豊かさが伝わってくる作品は、たくさんの人々の心を動かすだろう。作者にとっても、見る人にとっても、新しい可能性の扉が開かれることを願う。

「あじいる」のニュースレター「つぶやき」のタイトルには、「小さな声を集める・伝える」という言葉が添えられている。

私たちは、とにかく、自分の聞きたい音や声を聞き、自分の見たいものを見がちである。けれど、耳を眼を研ぎ澄まして、ちいさな声、見えづらいものをきちんと捉えていかなないと、世界は変わっていかない。

まだまだ、この世の中には自分が理解できないことが沢山あるけれど、ちょっとでも気づいたら感謝して、仲間から教わったり仲間に教えたりして、いっしょに進んでいきたいと願っている。

文・今川 篤子



隅田川医療相談会では、生活を含めゆっくり話を聴くことを大切にしている。 写真：山崎まどか

## 難民申請と入管

# 「ここで暮らしたい」 諦めずにいたいこと



「あじいる」に関わる面々は、ここ以外でも色々な活動をしている。わたしたち自身が雑多な五目飯みたいな寄り合い集団だ。

2020年のニューズレター (Vol.3) で、難民認定申請中のAさんのことについて書きました。あじいるでは、生活相談に来た初めての外国籍の方でした。

あれから4年たち、Aさんは今、日本を離れて第三国(C国)に住んでいます。本当は、大切なお母さまたちが住む出身国(B国)に戻ることを希望されていますが、迫害の恐れがあり戻れないうえに、日本の出入国在留管理局(以下、入管)からも「難民と認めない。ここから出ていけ」と言われたからです。2023年7月に1回目の難民認定申請に対する審査請求は棄却され、在留資格更新申請も不許可となり、今年の3月に退去強制になりました。

Aさんは、B国の政府が行っていた開発事業に反対する運動を率いていたために暴行や脅迫を受けて日本に逃れてきましたが、政治的状況は当時と根本的に変わっていません。しかし、日本では難民として認定されず、在留資格も更新できませんでした。

### 本当は日本で暮らしたい

Aさんは、入管で殺されてしまったウイシュマさんのことも知っており、B国に帰れるならば、この時点で帰国していたはずですが、やはりそれは危険であったため、「日本にいたいけれど、収容や仮放免になるのであれば、第三国へ出たい」と言いました。

私たちは他団体に相談したり、第三国で受け入れてもらえるNGOなどがいないか探し始めました。また、Aさんが収容されないよう、入管宛に「Aさんは、日本の地域社会の中で、一生懸命に働き、一緒に活動している大事な仲間である。Aさんを難民として認めてください。収容しないでください」という趣旨の要望書を作成し、約100名の賛同者の名前を添えて送付しました。

そんなある日、「AさんがC国に行けるかも」という話が出てきました。Aさんは、4年前から通っていた教会で、神父さんや信徒さんたちと深い信頼関係を築いており、その信徒さんたちが必死に探し回っていきなかで、C国のNGOと知り合いの方につながることができました。

そのNGOは、政府と協力し、難民条約で定義される「難民」に限らず、様々な理由で弱い立場に置かれた人たちの支援活動を行い、一定の条件を満たせば国が正規ビザを発行します。プライベートの支援者(スポンサー)を見つけなければいけない等の様々な条件がありますが、Aさんの場合は、ご自身の友人がC国にいて、奇跡的にそこに住まわせてもらえることになりました。

早速、教会の信徒さんたちと協力し合って、ビザ取得のための書類を集め始めました。難民の方たちは、国籍国の大使館に行くことができずにパスポートの有効期限が切れてしまっているケースも多いそうですが、Aさんは有効期限が2年以上残っていたことも奇跡だったのでしょうか。



個々に違う関わり方をしてきた仲間が見送る空港。幸せを祈る！

この間もAさんは入管から「違反審査(退去強制に該当するかなどを調査すること)」を受けており、出頭が命じられていましたが、2月13日にC国の大使館にビザの申請をすることができ、5日後の出頭の際にC国に渡航する意思を入管に伝えました。この時点では、担当職員から「もう退去強制手続きに乗っているから第三国への出国はできない」と言われました。

## いくつものハードル

そのわずか3日後、念願のビザがおりました。それを入管に伝えても、一向に動きがなかったのですが、あるメンバーが、「自費出国」を認めてもらうためには、出国のための資金があることを証明する必要があるという情報を見つけました。すぐに、教会で集まっていたAさんへの寄付金のことと、それとは別に航空券代をあじいるが負担することを書面にし、入管に持って行ってくれました。

すると、すぐに入管が「送還先」をC国にした退去強制令書を発付する方向で動き始め、B国を経由せずにC国へ出国できることになりました。もちろん、退去強制は何としてでも避けたかったのですが、安全にC国に行けることが最優先でしたので、皆で大喜びした瞬間でした。

退去強制になってしまったため、利用できる航空会社が制限されたり、出入国審査で問題が起きないかなど、最後の最後まで不安はつきませんでした。4月6日にAさんは無事にC国へ入国することができました。

Aさんは、どんなに辛い状況の中でも穏やかな態度で常に周りの人を信じていました。そんなAさんの幸せを祈り続け、物理的にも精神的にも彼を支え続けたのは教会のコミュニティでした。そのコミュニティの中で、ただただ穏やかに暮らしていただけなのに、もう二度と日本に戻れないかと思うと、その理不尽さに悲しさと怒りがこみ上げてきます。Aさんは本当によく入管に対して耐えてくれたと思いますが、私たちはその強さに甘えることなく、問題を追及し続けなければいけません。

現在のあじいるでは、仮放免の仲間たちも一緒に活動していますが、日本の入管法は更に後退し、この仲間たちを犯罪者に見立て、強制送還を正当化しようとしています。これは、入管で働く人々にも「いじめ」を強制し加害者にさせるものでもあり、どの立場に置かれた人にも深い傷を残すものにしかありません。どうしたら私たちは、自分たちの加害性について考え続け、そのうえでも目の前にいる人々と関りながら共に生きることを諦めたり冷笑せず、お互いに尊重し

あえる成熟した社会を作れるのでしょうか。

本来は行政が責任をもって保護すべきですが、今回C国のNGOを通して官民の協力体制についても学びました。C国以外でも、難民認定率の高い国では、民間スポンサーとの連携プログラムが発達しています。日本でも様々な支援団体やボランティアが難民の人たちと長年一緒に暮らしてきた実践の積み重ねがあります。

この地道な積み重ねが、「難民と暮らせるのか」と冷笑したり疑問視する人々への揺るぎない答えとなり、社会通念や国政も動かしていくと信じています。

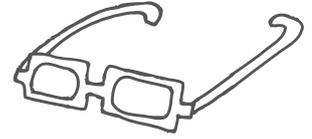
私たちも、難民の方たちや他団体から学び、努力を重ねていかなければと思います。

文・小西 智恵 写真・山崎 まどか



炊き出し、フードバンク、作業日、一緒に活動してきた大切な仲間との記憶。冷笑や諦めに閉ざされた世界を穿ちつづける

# ブルーテントの中 鍼灸師が見る 医療相談会



みなさんこんにちは。今回、「鍼灸師から見た医療相談会」というお題を頂戴しました鍼灸師の海老原義也です。

いつもテントの中にももっているのですが皆さんとお話する機会は少ないですがこの場を借りてちょっとだけ僕のこと、鍼灸のことを紹介します。

僕が医療相談会に関わったきっかけはリーマンショックの年に近所の学校で行われた反貧困フェスタでした。中央の舞台上で演劇やカラオケ大会が行われている端っこの小さなテントで施術する、そんなカオスな空間が僕のストリート鍼灸デビューでした。

当時まだ20代…… 時よ止まれ～！

デビューから数年後中村さんに「一番この場に合わなそうなのにまだ来ているのか」と笑われた頃から場に馴染んできたように思います。

それから東日本大震災での被災地支援、コロナ禍での医療相談会と困難な中をみんなと活動してきました。

10年前は30人前後を施術していましたがよく見かけたおじさんがポツポツと来なくなり最近は10人前後になりました。

僕は施術した人を結構覚えているので「あのおじさんどうしてるかな」と、時々思い出しますが連絡先を知っているわけでもないのに元気になっていると願うことしかできません。

隅田公園の周りも路上のおじさんが減り新しいマンションが建ち街も人も確実に変化してきています。

医療界では都立病院は3分の1に減り、療養型病院が増え、病院から在宅へ、こんな未来がすぐそこにきています。この変化の中で医療相談会の5年後、10年後はどんな形になっているのでしょうか。



夏の日差しや突然の雨から守ってくれる木陰。鍼灸テント前

今のままかもしれないし全く違う形になっているかもしれませんが僕は医療相談会に希望を持っています。

それは医療相談会のみんなが強者より弱者の側に立っているからです。

デジタル化や合理化でどんどん便利で楽しい社会になってもそれについていけない人、その中で犠牲になる人が必ず出てきます。

日雇い労働者、シングルマザー、子どもたち、外国にルーツのある人だったり。

彼らに寄り添う医療相談会はどんな形であったとしても必ず必要な活動となるでしょう。



初見の問診や今日までの経過など個別のカルテも作成。テント内

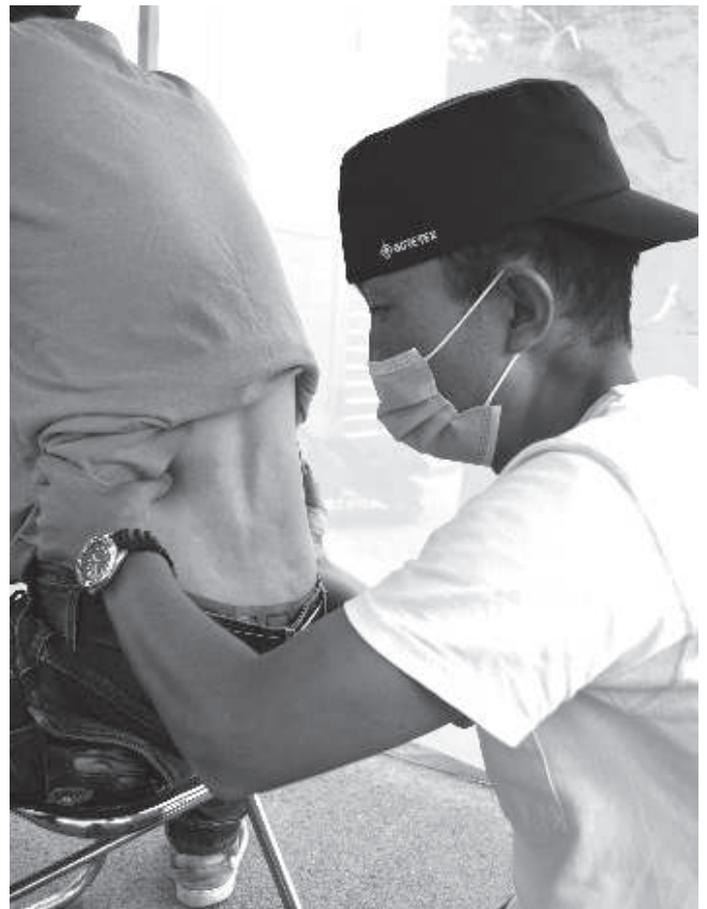
ちょっと話は飛びますが先月中国に行ってきました。  
不況に突入したと言われてはいますが街も人も活気がありました。この活気を作っているのは学歴と経済力を持つ強者が勝つ熾烈な競争です。

驚いた事にこの競争社会の中であって都市に路上生活者はほとんどいません。

それは路上に出ている人を故郷に戻し工場などで働くことを強制しているからだそうです。弱者に対するセーフティーネットのない社会は不況になったら一気に不安定になるのではと感じました。

中国に比べるとセーフティーネットが整っている日本ですが、これから先誰もが安心して暮らせる社会を作っていくことができるでしょうか。30年前に起こるはずだった競争による痛みを先送りしてきた副作用は、そんな社会の実現を大きく阻害することになるでしょう。

良い社会とはなにか、僕はまだわかりませんが医療相談会に行くとか答えに近づくような気がします。これからも鍼灸を通じて医療相談会に参加しながらより良い社会について考えていきたいと思います。



症状によって、座る、あるいはうつぶせの姿勢で仲間の身体を診る

文・海老原 義也 写真・山崎まどか

## 「あじいる」活動報告会

予告

2024年8月11日(日)午後2時15分 START

開場 午後2時

コロナ禍で急遽中止になった、活動報告会。  
今年開催します。医療、食、住まい、外国人支援  
……。現場で何が起きているのか!? 伝え・寄り合う  
1日です。活動映像の一部は、この日に初公開。

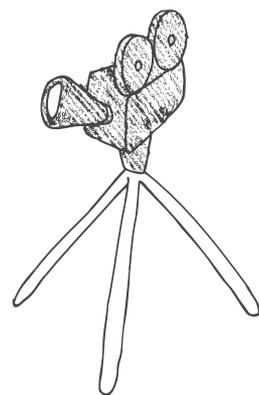
「生きる」を共に考える。ぜひ足を運んでください!

- 場 所 荒川区民会館(サンパール荒川)  
東京都荒川区荒川1丁目1-1  
\*地図は右QRコードより
- 参加費 500円\*資料代
- 問合せ 一般社団法人 あじいる  
TEL 03-5850-4863



まちと人の記憶

# 活動記録撮影 プロジェクトスタート



年に1、2度行うあじいる主催の「山谷フィールドワーク」。案内する中村さんも、住民たちもどんどん高齢化し、ドヤ街だった街並みはマンションが多くなり、バックパッカー向けの小綺麗なホテルが立ち並ぶ。昔の山谷を知っている人からしてみたら「ここが山谷？」と言いたくなるほど変化している。

それは、東京の都市部であればどこも同じような状況かもしれないが、歴史的につくられてきた山谷の街が無くなってしまふのは寂しいし、そこに住む人たち（住んできた人たち）が居なかったかのように扱われているようで悲しい。

「山谷の人・街の記録を残さなければ」という思いが募っていく中、山谷も大切だけど、目の前の仲間たちの高齢化が進み、活動に参加できなくなっている人が多くなっている状況もある。仲間たちの語りを記録した冊子「あじいる」は、創刊号から6号まで出版しているが、創刊号(坪一さん)と2号(亀山さん)は亡くなり、他の仲間も病気を抱えている。

まずは仲間たちの姿を映像として記録に残すこと。そして、今後のあじいるの活動内容は変化しても「仲間が中心」「誰でも参加できる」「フラットな関係」など……今大切にしていることが次の世代にも引き継げるように、映像として残しておきたい。そんな思いでスタートしたのが「あじいる活動記録撮影プロジェクト」である。

このプロジェクトを始めるにあたり声をかけたのは、新宿で野宿生活をしていた「あしがらさん」を追って映画を作った飯田基晴監督である。飯田さんの映画

「あしがらさん」を皆で鑑賞した。ひたむきに彼を追いかけて撮影し、飯田さんだからこそ引き出せる言葉や表情があり、そんな映像をあじいるでも撮ってほしいと思いお願いした。そして、もやいの田中さんにも協力してもらい撮影をスタート。(田中さんは5月以降、事情があり関われなくなってしまった)

まずはいつ体調を崩してもおかしくない仲間たちから撮影を始めた。仲間たちの活動している姿や言葉から見えてくるあじいるの活動こそが、あじいるの面



あじいる 中村 光男「山谷フィールドワーク」泪橋交差点



「通院のバスを降りた後は  
ここでお茶してから帰る」  
泪橋ホールにて撮影

白さであり、活動の肝である。一緒に夜回りをしている仲間には密着ドキュメンタリーみたいに撮らせてもらったり、お宅やドヤにお邪魔して、野宿していた時の話、今抱えている問題など話してもらったりした。

ずっとやりたくてもできなかった「山谷やられたらやりかえせ」の上映会も小規模だけど開催し、当時の状況について中村さんに語ってもらい、山谷フィールドワークの街歩きも撮影した。撮影が始まり約3か月。まだまだ始まったばかりで、どんな映像になるのか想像もできないが、あれもこれも記録に残しておきたいシーンばかりである。

あじいるは有給スタッフも居ない小さな団体だが、多岐に渡った活動をしている。それは、2000年から始まったフードバンクと2001年から始まった隅田川医療相談会が2019年に統合し、法人格を取得。今まで2団体がそれぞれ活動してきた内容をあじいるとして活動していることから想像に難くない。

そして、あじいるとして出発してからは地域の中に根差した活動として、毎週木曜日に行っている資源回収も加わり、レベルアップした。参加する仲間たちも、野宿生活を経験したメンバーだけでなく、難民申請中の外国籍の仲間たちや、アート活動を通して出会った仲間たちもいて、年齢も国籍も多様である。最終的にあじいるの活動の面白さや、仲間たちの大変な状況、今抱えている課題、社会に投げかけるメッセージをどのように映し出せるのか。

様々な事情から撮影NGの仲間もいる中で、創意工夫が求められる。話し合うたびに、「こんな視点が必要だ」「これは撮影した方がいい」等、たくさんの意見が

出てきて、編集作業をする側からしてみたらたまったもんじゃない。それを笑顔？(苦笑い?)と一緒に検討してくれている飯田さんは心強い。

どんな映像ができるのか今からワクワクしている。まだ始まったばかりのプロジェクト。来年には完成してお披露目をしたいと考えているので、みなさま映像公開するのを楽しみに待っていてください！

文・荒川朋世 写真・山崎まどか



飯田 基晴さん撮影風景

# 2023.10→2024.3 活動報告

あじいるの6つの取組みから  
「隅田川医療相談会+フードバンク」の報告  
皆さまのカンパ・寄付により実施しました！

報告・池上 哉美、荒川 茂子



2024年5月医療相談会にて午後3時からご飯

## 隅田川医療相談会

### 夜回り

医療相談会の前日、浅草・上野の2か所を回る  
路上で寝ている方たちに、毛布や相談会の案内チラシを配りながら、声をかけて回る

浅草 162名 上野 269名

2023年10月～ 2024年3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
夜まわり(浅草)	31	33	31	21	23	23	162
夜まわり(上野)	50	50	53	42	35	39	269

### 医療 相談会

毎月第3日曜日、隅田公園山谷堀広場にて開催

**医療相談 21名** 医師・看護師による健康相談。血圧などの簡易的な検査も実施  
20代：1名 30代：0名 40代：1名 50代：5名  
**紹介状 2通** 60代：7名 70代：5名 80代：0名 記録無：2名

**お薬 213名** 相談に基づき、内容により3日分の市販薬を配布  
医療従事者が担当

**鍼灸 33名** 身体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う

**散髪 41名** 会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る

**フットケア 87名** 足を洗ったり爪を切ることが難しい方へのフットケア

**炊事 540名** 仲間のご飯をみんなでつくる！

**生活相談 14名** 生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談

**アパート相談 0名** 生活保護受給後のアパート転宅等、住まいに関する相談

**法律相談 3名** 債務整理その他、法律家による相談



手前から法律相談、生活相談。奥に鍼灸  
診察、医療相談のテントが並ぶ。足湯と  
散髪も！毎月第3日曜日に山谷堀広場  
で相談会は午後2時から、ご飯は3時から！

### フォロー 活動

7名

相談に来た方たちの中で、生活保護の  
利用を希望する方や、継続的な治療が  
必要な方の医療機関・福祉事務所への  
同行を行う。入院した方のお見舞いや、  
継続的な相談の対応

## 一般社団法人あじいる 2023年度 会計報告

荒川 茂子

寄付金	3,019,060
年会費	351,000
毎日新聞社助成金	800,000
行事参加費	244,600
冊子あじいる売上	30,503
あうんからの委託費	113,693
バザー売上	29,200
受取利息	20

収入合計	4,588,076
前期繰越金	10,657,085
	15,245,161

家賃	1,080,000
車両・事務所共同利用分担金	240,000
電気代	72,571
配送・運搬	142,021
作業日経費	105,938
事務消耗品	42,732
田んぼ管理料	600,000
米 仕入代	333,000
医療相談会 炊き出し経費	299,267
医療相談会 レンタカー代等	224,066
医療相談会 薬代等	330,071
米作り経費	536,871
生活支援金	283,876
ワタシたちハニンゲンDVD	77,352

雑費	10,150
旅費交通費	51,720
通信費	109,257
ニュースレター作成	183,320
振込手数料等	2,572
消耗品	28,433
行事飲食代	97,274
大坪さんをしのぶ会	48,846
会議時食事代	26,275

支出合計	4,925,612
次年度繰越金	10,319,549

助けてください **お米が足りない!**

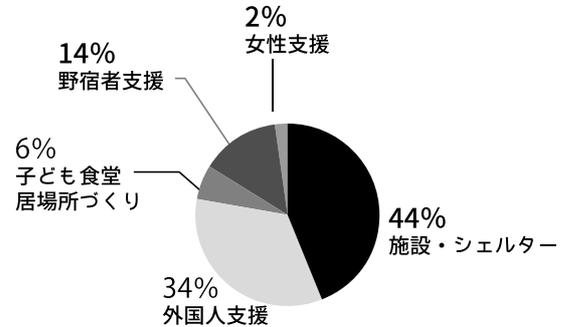
**SOS**

必要とされるお米が増えています。お米券も他団体の医療相談会へお渡ししました。お米のカンパが減り、皆さまからの寄付でお米を購入している状況です。  
**現在、お米が不足しています。** ご寄付・カンパをよろしくおねがいします！

\* 2024年5月は、緊急で山谷光照院より米約500kgの支援を頂き届けている状況です。

## お米の配送

24団体へ **4,250kg**のお米を届けることができました



お米の配送状況

(2023年10月～2024年3月)

単位: Kg

登録団体名(受け渡し先)		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設・シェルター	かわさきキャンプラズ・アクションポート	80	80	80	80	80	80	480
	サークルドア	80	90	80			90	340
	ホームとらむ	10					5	15
	みのわマック			100	100	100	100	400
	友愛会		160	100	100	120	140	620
外国人支援	カトリック東京国際センター					100	150	250
	北関東医療相談会	200	220	300	200			920
	難民支援協会						150	150
	反貧困ネットワーク	35	24	43	20	15	11	148
子ども食堂・居場所作り	足立インターナショナル・アカデミー			10			10	20
	あらにん会	10		10	10			30
	子どもの居場所イン町屋	10	10	10	10	10	10	60
	子ども村ホッとステーション					30		30
	タヴェルナ～小さな食堂～	20		20				40
	町屋ふれあい館			4			8	12
	みやまえの家	55						55
野宿者支援	浅草聖ヨハネ教会			30		35	40	105
	足立野宿者支援の会さくら	30	30	20	20	20	25	145
	大田幸陽会	15	15	5	5	15	15	70
	山谷夜廻りの会			20				20
	末日聖徒イエスキリスト教会	20	30	30	20	10	30	140
	あじいる	20	20	20	20	20	20	120
女性支援	女性ネットSaya-Saya			10				10
	女性の家ヘルプ	30					40	70
合 計		615	679	892	585	555	924	4,250

お米のカンパ受取&購入状況

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
497.5	1,822.5	834	379	257	437	4,227

# カンパのお願い

一人ひとりの生命を支える  
サポーターになる

□皆さまからの会費・カンパに支えられて活動を続けています  
お米や食品を備蓄する「低温冷蔵庫」の維持費／物資運搬の車両・燃料費  
医薬品、備品の購入、共同炊事の経費、医療機関・福祉事務所への交通費  
広報物の印刷費用、事務所経費などに使わせて頂きます。

## SOS

### お米

助けてください

毎月約1tが必要です。  
お米のカンパ・寄付を  
お待ちしております。

### 食品

お米支援をお願いします。24団体へ届けるためご協力を

- ・3年以内のもの
- ・玄米・白米ともに受け付けています
- ・外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- ・大口（100kg以上）の場合は事前にご連絡ください

- ・賞味期限が2ヵ月以上残っているもの
- ・日持ちするもの  
レトルト食品、缶詰、調味料、乾麺、非常用食品など

### 物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品  
＊靴下、男性用下着、タオル、カミソリ、石けん  
湿布薬、小型ラジオ、テレホンカード  
未使用切手、ハガキ。

### お願い

- 受け取ることができません！
- ×賞味期限が2ヵ月未満のもの
- ×開封後の食品
- ×生鮮食品
- ×商品説明が外国語のみのもの

お送り頂く際の送料はご負担いただきます。  
ご了承ください。



### 会員

賛助会費 一口：3,000円（年間）

### 参加

ボランティア

一緒に活動して仲間になる

振込先

- 銀行振込  
ゆうちょ銀行 ○一九店  
口座名義：一般社団法人 あじいる  
当座預金：0673914

- 郵便振替  
口座番号：00110-0-673914  
口座名義：一般社団法人 あじいる

医療相談、夜回り、登録団体への食料の配送作業  
イベントへの出店など、社会人だけでなく、学生など  
どなたでも参加いただけます。  
初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

送付・お問い合わせ先

## 一般社団法人 あじいる

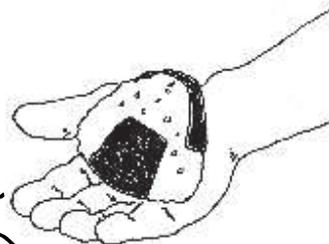
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-36-10 あうん気付

TEL:03-5850-4863 FAX:03-5850-4864

Email:aji\_iru@yahoo.co.jp

\*送付を希望しない方はご連絡ください

応援して  
ください



facebook 情報発信しています!  
Twitter @agile\_2019